

## 総務文教厚生常任委員会所管事務調査中間報告

### 1 所管事務調査事項

ふるさと納税の調査に関すること

「上土幌まると見本市2018」の実施及び意識調査

### 2 調査年月日

平成30年11月25日（日）

### 3 調査地

東京都

### 4 報告内容

#### (1) 調査の目的・視点

「上土幌まると見本市2018」の調査目的・視点は、町を上げての事業であることから、議員自らが事業の状況把握と納税者への感謝・説明を行い、納税者のふるさと納税に関する評価・意見・要望を独自のアンケート及び聞き取りを行い、現状の課題を把握し、今後への改善に資することとした。

大きな調査項目は、次の3点とした。

- ① ふるさと納税の返礼品について
- ② ふるさと納税の動機・きっかけについて
- ③ 都市圏における見本市（感謝祭）等のイベント開催について

#### (2) ふるさと納税の返礼品について

- ① 参加議員が、各々の相談ブースや配置された持ち場において、来場者一人ひとりにアンケート及び聞き取り調査を実施したが、殆どの方の評価は「満足している」との回答であった。一方、悪い評価は一件もなく上土幌が返礼している特産品は、納税者のハートを少なからずしっかり掴んでいるものと考えられる。

(ア) 上土幌町の返礼品は大変美味しく、種類も多く魅力いっぱい非常に良い。「満足している、美味しい」という声が多かった。

(イ) アイス、ジェラート、肉、ハンバーグ等は特に「新鮮で美味しい」との人気であった。また、蜂蜜についても国産で安心、そして香りが高く美味しいとの評価を頂いた。

- ② 来場者の要望として、次のような返礼品の提案があったので、今後新たな返礼品とするか、または改善として検討いただきたい。

- (ア) スキーリフト券
- (イ) おためし暮らしの宿泊券
- (ウ) 返礼品で大きくかさばるものは、家庭用冷蔵庫に入る大きさに分類してほしい。
- (エ) 返礼品の料理レシピがほしい。
- (オ) 返礼品の購入先の案内パンフレットがほしい。

(3) ふるさと納税の動機・きっかけについて

① ふるさと納税を始めた動機について

ふるさと納税申し込みサイトなど、インターネットによる検索で上士幌町を知り、返礼品の特産品が決め手となり納税を始めたとの回答が最も多かった。その他、下記による理由により納税につながったものもある。

- (ア) 親戚、知人、友人に上士幌町のことを紹介された。
- (イ) 国産蜂蜜や特産品に引かれて始めた。
- (ウ) マスコミ報道で知った。
- (エ) 頑張っている町だから応援したい。

② ふるさと納税金の使用目的について

子育ての無償化、教育支援、そして高齢者福祉へ重点的に使用している旨を説明したが、町からの情報発信が行き届いており、殆どの方が知っていた。

③ 今後の本町への納税継続について

今回聞き取りした方は、見本市に足を運んでいただいた納税者の方々なので、上士幌町をよく知り尽くしており特産品の評価も高く、目的の意図が強い方々なので、以下の通りすべての回答で「継続」の声があった。

- (ア) 返礼品の特産品が新鮮で美味しいので今後も続ける。
- (イ) 「頑張っている町」なので今後もふるさと納税を継続する。

(4) 都市圏における見本市等のイベント開催について

① 見本市の実施については、「親近感が感じられ大変よいこと」と高い評価だった。

② 試食会については、本イベントの目玉で、無料で特産品が食べられるため大変な人気であったが、以下のような注意や改善点が指摘されたので、次回に改善していただきたい。

- (ア) 座って試食できる椅子・テーブルが少なく立ち食い状態で、子供連れや高齢者の方たちは不便だった。特に、正午近くの時間帯は混み合い、椅子・テーブルが全く足りず、また空席がなかった。

- (イ) 次の特産品を半分の量でいいから、両方を食べ比べしたかった。
- ・ナイタイ和牛とハーブ牛
  - ・ローストビーフと焼き肉
  - ・いろいろなアイス
- (ウ) フライドポテトは、予定の数が提供できない状況で、芋の切り方、カップの大きさなどの検討が必要だった。食材等を少し多めに準備する必要がある。
- (エ) 大豆の焼酎が大変美味しかった。前は不人気で数量制限したため、今回はすぐにすべてが売り切れた。
- (オ) よつ葉牛乳は「濃厚で美味しい」と大変好評だった。
- (カ) 焼き肉、ハンバーグが硬かった。
- (キ) 物販コーナーは、想定以上に特産品が売れ、特に試食したものが午前中に完売となった。そのため、購買希望があったが注文書の準備がなかった。
- (ク) 食のブース配置が良くなかった。看板が低く並んでいる人が分かりにくかった。
- (ケ) 午後からの来場者の方には、品切れの品が多く気の毒だった。

③ その他

- (ア) イベントに随行する担当者が最小限なことから、準備・設営段階から本番、後片付けまで一つの作業でもかなり苦労していた。
- (イ) 飲食会におけるスタッフ配置については、担当者が商品販売の当事者でなく説明がうまくできていなかった。できる限り商品の当事者が担当者となるように参加してほしい。

(5) 「上士幌まるごと見本市2018」に参加しての感想

ふるさと納税は、本町のような自主財源に悩む地方自治体にとって、新たな財源の確保策として有効な制度である。

この制度では、返礼品の充実も必要ですが、寄付者に自分の納税金がまちづくりに活かされていることを実感して頂くことが、継続的な納税及びまちづくりの応援団へと繋がるため、引き続き、効果的で有益な情報の提供に努めなければならない。

以下、議員個々の感想及び課題を記載する。

- ① ふるさと納税の納税金は、本町にとって今や重要な財源となっていることから、多くの寄付者との接点を大事にして、今回のような見本市は今後も必要と感じた。
- ② 来場者は皆、上士幌町に好意を持ってきているようで、このような方とイベントの場で一人でも多くの方々と話ができ、お礼とこれからの継続的な

納税をお願いできたことは、大切なことだと思つづく感じた。また、上士幌町にふるさと納税をしてきている来場者に、直接お礼を伝えることができたことはとても収穫になった。

③ 関係人口、交流人口を増やすには、反省点を改善し続けていくべきだと考える。

④ 課題として

(ア) 移住や二地域居住については、次のような要望・希望があり、これに対し上士幌町としてどのように叶えられるか検討の必要があります。

- ・ 今まで、都会の中で家族のために会社で一生懸命働いてきたが、今後の人生のあり方は、夫婦での時間の過ごし方を自然の中でゆっくり暮らしたい。
- ・ 狩猟期間中に狩猟がしたいので、町に定住したい。
- ・ 上士幌に移住を決めている方や起業したい方は、先ずお試し住宅で生活したい。

(イ) 多くの方から、見本市会場で「納税する場」の設置の要望があった。

(ウ) 見本市会場に、特産品の注文・販売・発注・発送をしてもらえる場が欲しかった。

(エ) 議会が行ったアンケート調査については、町のアンケート調査と重複した部分があった。また、町の調査にはお菓子のサービスがあり、ハンディキャップがあった。

また、試食中は話しかけられず、思うように調査できなかった。